

(様式1)

自己評価票

作成日 平成28年10月17日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873100762		
法人名	医療法人社団 正信会		
事業所名	グループホーム もくれん	ユニット名	南館
所在地	〒311-3412 茨城県小美玉市川戸1425-14		
自己評価作成日	平成28年5月6日	評価結果 市町村受理日	平成28年10月25日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigyosyoCd=0873100762-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成28年7月21日	評価機関 決 済 日	平成28年10月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

日々の関わりの中で、一人1人が持っている力を見出し、本人の意欲を上手く引き出し活躍できる場面づくりに取り組み、必要に応じてさりげないサポートをし 柔軟な対応を心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は大きな道路から少し入ったところに立地し、周りは緑豊かな環境となっている。
職員が手入れしている花のプランターが道路沿いにあり、事業所まで導いてくれている。
玄関前の椅子に座って、利用者は外の景色を楽しみながらゆっくりと生活することができるほか、玄関には杵と臼が置いてあり、ホッとする空間となっている。
中庭ではかぼちゃや小豆などを栽培し、利用者は職員と一緒に楽しんでいる。
紙や古布を活用して制作した手作り作品が、いたるところに飾ってあるほか、居間兼食堂には家族等が栽培した花が常に飾ってあり、豪華な雰囲気となっている
職員は自然豊かな環境で利用者の思いに寄り添いながら、職員自身ものんびり利用者と一緒に和気あいあいと生活している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	
			実施状況	
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念を各ユニットごとに見やすい所に掲示し 更なる実践につなげている	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方々とのつながり、交流を大切にしている。行事や消防訓練等への参加も、除々にはあるが参加して頂けるようになってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム内の見学を希望時にして頂いたり、高校性の職場体験を受け入れ交流を持ち、認知症へ理解を深めて、協力・支援を得られる様に努めている。	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方や家族の方にご協力頂き、2ヶ月1回メンバーを変えながら、色々な意見を出して貰いサービスの質向上にいかしている。会議に後には、面会して様子を見て帰られるので、利用者も楽しみにされています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何か相談事があれば、話しが出来る協力関係を築くよう取り組んでいる	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。拘束のないケアのために職員間で話し合いをして士気を高め、今後も拘束のないケア実践に努めて生きたい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待をしない、事業所内での虐待もまた、見過ごされる事のない様徹底して防止に努めている。虐待防止の研修の機会があれば、参加したいと思う	

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活を送る中で、生活費の管理や判断をすることが1人では適切に出来ないため、関係者と本人と十分に話し合い検討して制度を利用されています。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、十分な時間と契約書に添った説明をしています。また、分からない点や疑問に思うことがあれば、何時でも受けている事を伝えている。
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	自由ノートやご意見箱を玄関横に設け意見・要望など気が付いた点を気軽に記入してもらう
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から一日の流れの中で少しの時間があれば、意見や提案を聞く機会を設けている。働き易い職場作りのため、対応の必要有る意見については、話し合いの時間を設け反映されるよう努めている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	母体施設側で全て行っています。
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム全体で、研修に取り組み、全職員が学ぶ機会を多くし職員のスキルアップに努め出来るだけ統一したケアが出来る様に努力しています。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	勉強会等に参加し交流する機会を増やし、相互の訪問や意見交換交流を通じて職員を育てる仕組みが構築され意識向上・サービスの質向上につなげて生きたい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	知らない所での生活に対する不安は、想像以上のものかと思われます。心配事・不安・要望に耳を傾け信頼関係作りに努力している。情報提供書や家族などから直接情報を得るようにしている。(趣味・好物・以前の職業) 本人にとって、最善の対応が出来るように努めている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約時には、納得のいくまで説明をしている。何かご要望があれば、気兼ねなく話して頂ける雰囲気作り、信頼関係を深めていけるよう努力している。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が一番必要なのか傾聴し、優先順位を日々の生活の中で観察し見極め、支援できるよう職員で話し合いの機会を持っている。
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に喜怒哀楽を共にし暮らしを共にする者同士の関係を築いていける様に努力している。
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何時でも自由に面会に来て頂き、面会時には、居室でゆっくり過ごして頂いたり、一緒に外出されたりと良い関係が継続出来るように支援しています。
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切な人への電話や手紙のやりとり(投函)を取り次ぎ、面会・外出と馴染みの関係が切れないよう支援に努めている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気のあったもの同士一人ひとりが孤立せず所々に長椅子を置いたりして支え合い職員にも気軽に相談したり、声掛けあえる場所作りとなっている。孤立しないような声掛けに努め、自然な流れで利用者同士が関われるよう支援している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約は終了しても 今までと変わらず、電話や近くに来た際には、気軽に声掛けて相談も対応できる事を伝えている。信頼関係を深めていける様努めていきたい。
しを続けるためのケアマネジメント			
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人本位にその人らしさを大切に今できる事、好きな事が出来る様に支援し楽しい時間が提供できるように取り組んでいる。（畑仕事・読書等）
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしぶりや、生活環境、サービス利用など家族、本人、情報提供書などから把握している。暮らしの中でこれまでの経験趣味を活かし力を発揮して貰い、い
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人のペース生活リズムを崩さぬよう大切に見守りをしている。要望が有った時にはその都度必要な支援が出来るよう柔軟な対応をしている。
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の観察と気付きから課題が出れば、少しの時間を作り職員で話し合い・意見の交換をしてよりよい生活が送って頂けるよう介護計画の作成に努めている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子や気づいた事などを、介護記録、ケース記録に記入し 話し合いを持ち実践や介護計画の見直しを行っている。職員全体が把握できる代に工夫して情報を共有している。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	暮らしの中で生まれる希望や訴えを気軽に相談して貰い要望に応じた対応が出来るように常に雰囲気作りを心掛けて取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価
			実施状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方々、小中高生、ボランティア等の人的・物的地域資源の把握し、協力しあいながら、本人がより良く暮らし続けられるよう支援しています。
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は自由となっている。母体病院以外の受診を希望される方には、家族の協力を得て、受診前には現状の情報を提供し、受診後は、家族より受診の結果・検査結果や医師からの指示注意事項の報告確認をしています。
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の状況や変化、薬に有無などを確認注意をし、訪問診療時には報告相談・情報提供をして連携が取れるよう努めている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体病院との連絡・情報交換を密にし、本人が安心して治療を受けることができ、早期退院に向けて病院側との関係作りを行っている。
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約の際、家族の方と十分な話し合いを行い納得頂けるよう説明している。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員がいざという時確実・適切な対応取れるよう母体病院の意見・助言を求め、定期的な講習会を行い実践力を身につけて全職員が対応出来るように努めていきたい。
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練を年に2回消防署の方が入り行っている。全職員で真剣に取り組んでいる。訓練後は、消火器を使った消火訓練や消防の方から、批評・指導を受けている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ゆったりとした時間の中で一人ひとりの人格を傷つけない言葉かけに気をつけて対応している
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	人それぞれが自分の思いや希望を表すことができるよう、時間をゆっくり取り、待つ事の大切さを心掛けている
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの特徴を把握し入居者のペースにそって見守りながら一緒に楽しい時間を過ごせるよう支援している
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月一回の床屋さんにかかる事ができヘアースタイルも自由である 服装も一人ひとり好みのものを着ている おしゃれを楽しめるよう支援している
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けを一緒にしたり 献立表を見やすい所に掲示し 近所の方からの季節のふきやたけのこ・カボチャなどみんなでごしらせを手伝い食事が楽しい物となるようにしている
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康管理表に 食事の摂取量、水分量を毎日チェック記録している 一人ひとりの健康状態や体重増減などを職員が把握している 食生活に対する支援を行う
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前後にうがい、歯磨きをしている 出来ない人へは、声掛け、介助が入る 風邪予防の為緑茶うがいを取り入れている

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	なるべくオムツを使用しない事を目標にしている。排泄パターン、定時でのトイレへの誘導や兆候を見のがさないよう見守ると共に自立に向けて支援している
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に配慮して、便意がなくても決まった時間に便器に座ってもらうことを習慣づけていく事に取り組んでいる。散歩・マッサージをしたり寝たきりの方にも体位交換をして腸の動き活性化をしていく。場合によっては下剤を使用することもある。
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は職員の都合と成っている。それぞれが入浴を楽しみにされており、ゆったりと気持ち良く入浴出来るように個々に合わせた湯温度調整に配慮をし支援している。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズム作りをし 体操や活動の場を作っている。わずかな時間ではあるが、午睡の時間をとり 安心して眠れるよう支援する
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ノート(薬の内容・副作用などが書いてある)を常に見る事ができる。飲み忘れや間違っって飲むことのない様、見守り、確認をしている。何らかの変化があった場合には、直ぐに医師、看護師に連絡をとっている
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や家族から 昔の事を聞いたりして、その人らしさが生活の中で活かしていけるよう引き出している。
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の方の面会時には、なるべく一緒に出かけられるよう 普段から家族の方との連絡を密にとるようにしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理は 本人の希望や力量に応じて行っている 職員も 買物をする楽しさ、レジでの精算が大切かを理解し、買物をする機会も増えている</p>
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>公衆電話は、自由に使う事ができる。また、年賀状や暑中見舞いのはがきなどの投函や各棟の固定電話でも 取次ぎや掛ける事への支援も行っている</p>
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関のスペースもゆったりとした雰囲気作りとなっている。職員の話す声のトーンにも配慮し、安心して楽しく暮らしていけるよう工夫している。前庭には、季節の花を植えたり、ベンチを設置して日光浴して気軽に座って憩いの場に成っています。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ロビーや玄関に長椅子やベンチ、テーブルを置いてある。他の棟の方々との交流もあり自由に過ごせる時間、居場所の工夫をしている</p>
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の愛着のあるものや近所の商店のカレンダーを居室に飾ったりして 居心地良く過ごせる場所となっている</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>洗濯物をたたむ人、テーブル拭き、ゴミ箱折りなどそれぞれができる事への出番、楽しみ方を見出している</p>

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと ○ 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある ○ 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない